

追 悼



故 岡島英五郎 先生 略歴

(昭和6年12月17日生～平成29年11月5日没)

<略歴>

- 1957年 奈良県立医科大学卒業
- 1957年 医師実地修練(日本生命済生会附属日生病院)
- 1964年 奈良県立医科大学泌尿器科学講座講師・同附属奈良病院医長
- 1965年 ドイツ連邦共和国ザール大学泌尿器科学教室留学
- 1975年 奈良県立医科大学泌尿器科学講座教授
- 1986年 奈良県立医科大学附属がんセンター所長
- 1994年 奈良県立医科大学附属病院院長
- 1997年 奈良県立医科大学教授退任(同名誉教授)
奈良県立奈良病院院長
- 1998年 奈良県立医科大学学長
- 2001年 高の原中央病院名誉院長

<学会活動>

- 1975～1997年 日本腎臓学会学術評議員
- 1986～1997年 日本透析療学会(現日本透析医学会)評議員
- 1989～1997年 日本泌尿器科学会理事
- 1993～1997年 日本癌治療学会理事
- 1994～1996年 日本 Endourology・ESWL 学会理事長

<日本腎臓学会 役員・委員等>

- 学術評議員
- 法人評議員
- 監事
- 功労会員
- 名誉会員
- 用語集委員会委員
- 専門医制度委員会施設審査部委員会委員
- 認定専門医審査部会委員
- 大島賞選考委員会委員
- 理事候補者推薦委員会委員

<受賞等>

- 1992年 日本テニス協会功労賞
- 1997年 秩父宮記念体育振興会表彰
- 2002年 第2回カールストルツ賞
- 2006年 内視鏡医学研究振興財団顕彰
- 2008年 瑞宝中綬章受章

岡島英五郎先生のご逝去を悼む

奈良県立医科大学泌尿器科学講座

藤本清秀

2017年11月5日、奈良県立医科大学名誉教授の岡島英五郎先生が86歳でご逝去されました。岡島先生は1957年に本学をご卒業後、大阪市内の日本生命済生会附属日生病院で医師実地修練を受けられました。1965年にドイツ連邦共和国のザール大学に留学後はドイツ流泌尿器科学の研鑽を積み、帰国時には世界初のグラスファイバー尿道膀胱鏡を本邦に導入するなど、その後も内視鏡診断・手術のパイオニアとして泌尿器内視鏡外科の発展に尽力されました。研究ではライフワークである膀胱癌の自然史解明に精力的に取り組まれ、齧歯類とイヌの膀胱化学発癌モデルを確立され、膀胱発癌の機序解明に関する基礎研究や膀胱癌の再発予防治療に関する臨床研究で多くの業績を残されました。県内外の関連施設とともに奈良泌尿器腫瘍研究グループを結成し、多数の多施設共同研究を実施され、その成果をエビデンスとした治療指針の作成や治療の標準化に尽力されました。

一方、腎不全領域の診療・研究にも大きな貢献をされました。1970年には本学に人工腎室が設立され、Kiell型人工腎が導入されますと、精力的に透析医療の充実に取り組まれました。その後、人工腎室は奈良県の透析医療の中心施設として、先生のご尽力により中央透析部へと発展しました。また、奈良県透析療法研究会を設立され、初代理事長をお務めになりましたが、その後も同研究会を奈良県医師会透析部会へと大きく成長させられました。1974年には、奈良県で最初の生体腎移植を実施され、奈良県腎臓バンク設立に際しては代表者として活躍されるなど、教室の主要な診療テーマの一つである腎移植・透析療法の大きな礎を築かれました。1975年に本学泌尿器科学講座教授に就任され、同年、日本腎臓学会の学術評議員にも就任され、長年同評議員を務められました。

1984年には尿路結石治療の新時代を築いた経皮的腎尿管結石碎石術と経尿道的尿管碎石術を導入され、その後も体外衝撃波碎石術、腹腔鏡手術、腎温存手術を導入するなど、尿路結石症や泌尿器癌に対する内視鏡手術や低侵襲治療の発展に貢献されました。この功績に対しては、後年、第2回カールストルツ賞、内視鏡医学研究振興財団顕彰を受賞されました。排尿障害に関しては、二分脊椎の専門医療機関である星ヶ丘厚生年金病院(現星ヶ丘医療センター)を拠点に、神経因性膀胱の診療・研究の発展に大きく貢献されました。また、奈良県透析療法研究会(現奈良県医師会透析部会)および奈良県腎臓バンクの責任者として腎移植の推進、透析医療の向上に貢献されたことで、1991年に厚生大臣感謝状、1994年には腎研究会(現日本腎臓財団)学術賞を授与されました。このように、先生は泌尿器腫瘍学、排尿障害、さらに血液浄化・腎移植領域を診療の3本柱に据え、数々の研究を推進され、後進の教育にあたりとともに多くの患者の診療を行い、今日の教室の礎を築かれました。

1994年に本学附属病院院長に就任され、1996年から奈良県立奈良病院院長を兼任されましたが、1997年に教授を退任後は県立奈良病院院長に専任され、地域医療の中核拠点病院の発展に尽力されました。教授在任中は、日本泌尿器科学会をはじめ、日本腎臓学会、日本癌治療学会、日本Endourology・ESWL学会(現日本泌尿器内視鏡学会)など主要学会の要職を歴任されました。日本腎臓学会においては、1995年に法人評議員、1996年に監事に就任され、1997年以降は功労会員、2002年以降は名誉会員となられて当学

会の発展に貢献されました。1998年には本学学長に就任され、医学教育改革と附属病院ならびに地域医療の発展にご尽力いただきました。2001年に学長を退任されてからは、高の原中央病院名誉院長として大所高所よりご指導をいただいております。

スポーツマンの岡島先生は、長年、大阪市テニス協会会長をお務めになり、こよなく愛されたテニスを通じて、体育の向上・発展に貢献されました。この功績によって日本テニス協会功労賞や秩父宮記念体育振興会表彰を受けておられます。先生の教育者、研究者、臨床医としての顕著な功績と真摯なお姿に改めて敬意を表しますとともに、ここに謹んでご冥福をお祈りし、これまで惜しみなくいただいたご恩に心からの感謝を申し上げます。